

二〇一八年度 第一回

国語 (50分)

△注意▽

- (一) 開始のチャイムが鳴るまで、この冊子を開いてはいけません。
- (二) 問題は1ページから31ページに印刷されています。
- (三) 受験番号と氏名は解答用紙の定められたところに記入しなさい。
- (四) 解答はすべて解答用紙の定められたところに記入しなさい。

受験番号		



## I

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

昔から伝わる言葉に、「失敗は成功のもと」「失敗は成功の母」という名言があります。失敗しても、それを反省して欠点をあらためていけば、必ずや成功に導くことができるという深遠な意味を含んだ <sup>a</sup> キョウクン です。

私は大学で機械の設計について指導していますが、設計の世界でも、

「よい設計をするには経験が大切だ」

などということがよくいわれます。私はその言葉を、

「創造的な設計をするためには、多くの失敗が必要だ」

といいかえることができますと考えています。

なぜなら人が新しいものをつくりだすとき、<sup>①</sup> 最初は失敗から始まるのは当然のことだからです。

人は失敗から学び、さらに考えを深めてゆきます。

これは、なにも設計者の世界だけの話ではありません。営業企画きかくやイベント企画、デザイン、料理、その他アイデアを必要とするありとあらゆる創造的な仕事に共通する言葉です。つまり、失敗はとかくマイナスに見られがちですが、じつは新たな創造の種となる <sup>b</sup> キチヨウ な体験なのです。

<sup>②</sup> いまの日本の教育現場を見えますと、残念なことに「失敗は成功のもと」「失敗は成功の母」という考え方が、ほとんど取り入れられていないことに気づきます。それどころか、重視されているのは、決められた設問への解かいを最短で出す方法、「こうすればうまくいく」「失敗しない」ことを学ぶ方法ばかりです。

これは受験勉強にかぎりません。実社会でも通用する知識・教養を教える最高学府であるはずの大学での学習もまた同じです。失敗から学ぶ体験実習のように、自分の力で考え、失敗経験を通じて新たな道を模索もさくする、創造力を培つちかう演習が行われる機会は、悲し

いかなほとんどありません。これが、「日本人の欠点」として諸外国から指摘され、また、自らも自覚している「創造力の欠如」にそのまま結びついているのではないのでしょうか。

たしかに以前は、ほかの人の成功事例をマネすることが、成功への近道だった時代がありました。そうした時代には、決められた設問に正確な解を素早く出す学習法が有効だったのは事実です。

しかし、ほかの人の成功事例をマネすることが、必ずしも自分の成功を約束するものではなく、自分がいまの時代です。③昨日までの成功は、今日の成功を意味しません。そのような時代に大切なものは、やはり創造力です。そして創造力とは新しいものをつくりだす力を意味している以上、失敗を避けて培えるものではありません。

創造力を身につける上でまず第一に必要なのは、決められた課題に解を出すことではなく、自分で課題を設定する能力です。あたえられた課題の答えのみを最短の道で出していく、いまの日本人が慣れ親しんでいる学習法では、少なくとも④いまの時代に求められている真の創造力を身につけることはできません。

それでは、創造的な仕事をする場合、できれば身につけていたい知識とはなんなのでしょうか？

それを知るためにも、自分が新しい企画を考へるときの様子を想像してみることによきましょう。

あなたはまず、「こうすればうまくいく」という成功話を見聞きしたいと思うかもしれません。たしかに受験勉強などで、ある決められた仕事をこなすためには、「こうすればうまくいく」話はいへん有効です。しかしあなたはじきに、「こうすればうまくいく」話だけでは不十分だということに気づくでしょう。なぜなら「うまくいく」話をもとにつくった企画は「どこかで見聞きした企画」にすぎないからです。

ではそこで、本当に欲しくなる話は何でしょうか。それがじつは「こうすればまずくなる」という失敗話なのです。

「こうすればうまくいく」といういわば **A** の世界の知識伝達によって新たに作りだせるものは、結局はマネでしかありま

せん。ところが、「こうやるとまずくなる」という **B** の世界の知識伝達によって、まずくなる **C** ヒツゼン性を知って企画することは、人と同じ失敗をする時間と手間を **ハブ**き、<sup>(d)</sup> 前の人よりも一ランク上の創造の次元から企画をスタートさせることができま

す。  
この **C** の世界の知識伝達には、さらに <sup>(5)</sup> 別の大きなメリットもあります。

じつは私もかつては大学の授業で、ある問題に対して決まった解を出す、「正しいやり方」のみを学生たちに指導していました。当時は、知識を身につけさせる上で、それが最短かつ効果的な方法と考えていたからです。

しかし結果として、「正しいやり方」を学んだ学生たちが身につけた知識は、表面的なものにすぎなかったのです。パターン化された既成の問題にはきちんと対応できても、実際に新しいものを自分たちで考えさせてつくらせてみると、こうした知識はほとんど役に立ちません。それ以前の問題として、自分が新たにどういうものを生み出そうとするのか、<sup>(かんじん)</sup> 肝心の課題設定さえ自分の力で行う能力が身につけていない学生が数多くいました。

この問題を解消するために、私は効果的な指導方法をいろいろと模索したのですが、<sup>(もさく)</sup> 其中で予期しないことが起こり、思いどおりにならない経験から真の理解の必要性を痛感することの有効性に気づきました。

大事なことは、ひとつには学ぶ人間が自分自身で実際に「痛い目」にあうこと、もうひとつは自分で体験しないまでも、人が「痛い目」にあった体験を正しい知識とともに伝えることです。後に詳しく触れますが、「痛い話」というのは、「人が成功した話」よりずっとよく聞き手の頭にも入るものなのです。

このように、**D** の世界の知識、すなわち失敗経験を伝えることは、教育上大いに <sup>(e)</sup> イギのあることですが、残念なことに失敗そのものには、「回り道」「不必要なもの」「人から忌み嫌われるもの」「隠すべきもの」などとといった負のイメージが常につきまっています。そのせいか、いまの日本には、失敗体験が情報として積極的に伝達されることがほとんどありません。

本来は成功を生み出す「もと」であり「母」であるはずのものが、まったく生かされていないのは、非常にもったいないことです。

私が紹介しようとしている「失敗学」が、いまの日本の中での失敗そのものの見方、扱い方に **E** もものなることを切に望んでいます。

最近大きな事故のニュースに接する機会が多くなっています。

一九九九年秋に問題になったJR西日本のトンネルのコンクリート剥落事故、九月に起きた東海村でのジェー・シー・オー（JCO）の臨界事故などに続いて、二〇〇〇年に入ってから三月に地下鉄日比谷線の脱線事故が起きたりと、思わず目を覆いたくなる事故が相次いで起こりました。さらに、大きな社会問題になった六月の雪印の食中毒事件や増える一方の医療ミス（これは従来隠されていたものがようやく出てきただけではないかとも思いますが）などが新聞紙上ににぎわしたりと、従来だったら考えられないような失敗が、ここに来て一気に噴き出している印象を受けます。

これらの事故に対し、

「日本の技術基盤が崩れかかっている」

という論調もありますが、これはあまりにも一方的な見方です。いずれのケースも日常的な失敗とのつき合い方そのものに問題があり、いわば失敗とうまくつき合うことができなかつたことが原因の事故だと、私自身は考えています。

人の心は意外に弱いものです。強い負のイメージがつきまとう失敗を前にすると、誰しもつい「恥ずかしいから直視できない」「できれば人に知られたくない」などと考えがちです。失敗に対するこうした見方は、残念ながらいまでは日本中のありとあらゆる場面で見受けられます。

実際、負のイメージでしか語られない失敗は、情報として伝達されるときにどうしても小さく扱われがちで、「効率や利益」と「失敗しないための対策」を **F** と、前者が重くなるのはよくあることです。人は「聞きたくないもの」は「聞こえにくい」し、

「見たくないもの」は「見えなくなる」ものです。

しかし、失敗を隠すことによつて起きるのは、次の失敗、さらに大きな失敗という、より大きなマイナスの結果でしかありません。失敗から **G** あまり、結果として、「まさか」という致命的な事故がくり返し起こっているのだとすれば、失敗に対するこの見方そのものを改めていく必要があります。

すなわち、最近のような事故を防ぐ上でも、やはり失敗とのつき合い方そのものを変えていくことが大きなポイントになります。忌み嫌うだけのいままでの方法には限界があることは、最近になって相次いで起こっている事故を見れば明らかです。そこから一歩進んで、失敗と上手につき合つていくことが、いまの時代では必要とされているのです。

⑥ 失敗はたしかにマイナスの結果をもたらすものですが、その反面、失敗をうまく生かせば、将来へのおおきなプラスへ転じさせる可能性を秘めています。事実、人類には、失敗から新技術や新たなアイデアを生み出し、社会を大きく発展させてきた歴史があります。

これは個人の行動にも、そのままあてはまります。どうしても起こしてしまう失敗に、どのような姿勢で臨むかによつて、その人が得るものも異なり、成長の度合いも大きく変わってきます。つまり、失敗とのつき合い方いかんで、その人は大きく飛躍するチャンスをつかむことができるのです。

人は行動しなければ何も起こりません。世の中には失敗を怖れるあまり、何ひとつアクションを起こさない慎重な人もいます。それでは失敗を避けることはできませんが、その代わりに、その人は何もできないし、何も得ることができません。

これとは正反対に、失敗することをまったく考えず、ひたすら突き進む生き方を好む人もいます。一見すると強い意志と勇気の持ち主のように見えますが、危険を認識できない無知が背景にあるとすれば、まわりの人々にとつては、ただ迷惑なだけの生き方でしょう。

おそらくこの人は、同じ失敗を何度も何度も繰り返すでしょう。現実には、失敗に直面しても真の失敗原因の究明を行おうとせず、

まわりをごまかすための言い訳に終始する人も少なくありませんが、それではその人は、いつまでたっても成長しないでしょう。また人が活動する上で失敗は避けられないとはいえ、それが致命的ちめいてきなものになってしまつては、せっかく失敗から得たものを生かすこともできません。その意味では、予想される失敗に関する知識を得て、それを念頭に置きながら行動することで、不必要な失敗を避けるということも重要です。

大切なのは、失敗の法則性を理解し、失敗の要因を知り、失敗が本当に致命的なものになる前に、未然に防止する術を覚えることです。これをマスターすることが、小さな失敗経験を新たな成長へ導く力にすることになります。

さらに新しいことにチャレンジするとき、人は好むと好まざるとにかかわらず再び失敗を経験するでしょう。そこでもまた、致命的にならないうちに失敗原因を探り、対策を考え、新たな知識を得て対処すれば、必ずや次の段階へと導かれます。そして、単純に見えるこの繰り返しこそが、じつは大きな成長、発展への原動力なのです。

人の営みが続くかぎり、これから先も失敗は続くし、事故も起こるでしょう。とすれば、これを単に忌み嫌きらって避けているのは意味がなく、むしろ⑦失敗と上手につき合う方法を見つけしていくべきなのです。



【問1】

〓 a) e) のカタカナを漢字に改めなさい (楷書でいいねいに書くこと)。

- a) キョウクン      b) キチヨウ      c) ヒツゼン      d) ハブキ      e) イギ

【問2】

① 「最初は失敗から始まるのは当然のこと」とありますが、なぜ「当然のこと」と言えるのですか。もっとも適当なものを次の中から選び、(ア) ～ (エ) の記号で答えなさい。

- (ア) 取り返しのつかない間違いを犯してからはじめて、新たな工夫や方法を考えつくものだから。  
(イ) 何かしらの不都合を修正しようとするところから、新しいアイデアが生み出されるものだから。  
(ウ) 同じような誤りが繰り返された後に、それまでとは違う技術が必要とされるようになるから。  
(エ) 失敗を恐れることなく失敗を重ね続ける人だけが、見たことがないような発明ができるから。

【問3】

② 「いまの日本の教育現場」とありますが、筆者は「いまの日本の教育現場」の問題点をどのように捉えていますか。もっとも適当なものを次の中から選び、(ア) ～ (エ) の記号で答えなさい。

- (ア) 大学を卒業してから、社会で必要とされる実用的で具体的な知識・教養を学生に教えようとしないうこと。  
(イ) 成績優秀な人のマネをすることばかりを推奨し、生徒一人ひとりの個性がないがしろにされていること。  
(ウ) 機械の設計をするために不可欠な要件である、自分の力で考えるための訓練をおざなりにしていること。  
(エ) 人から与えられた問いに対して、素早く適切な答えを導き出すことがもっとも重要だとされていること。

【問4】

③「昨日までの成功は、今日の成功を意味しません」とありますが、これに関する次の説明文の a にあてはまる適当な語を次の中からそれぞれ選び、(ア)～(シ)の記号で答えなさい。

「昨日までの成功」は、ある時期における、ある場所での a 的な成功を意味します。

たとえば、二〇〇〇年代、立体的に見える3D映画が多く公開され、良好な興行成績を収めたことにより、3Dテレビの販売が一気に加速しました。各メーカーから今までのテレビにない3Dという新しい b をつけ加えたものが発売されたのです。二〇一〇年には、国内の主要メーカーの3Dテレビが c 出揃い d ましたが、このときは3Dテレビの製品化が、各メーカーにとつての成功だったと言えます。しかし、二〇一八年現在、店頭で3Dテレビはほとんど見なくなりまし。つまり、3Dテレビの成功は、二〇一〇年前後という c と、日本国内という d に a された成功だったと言えます。 c と d が違ってしまえば、それを「良い」とする評価の e が変わってきます。それにも関わらず、「昨日までの成功」にいつまでも f すると、「今日」に何が求められているのか、を見きわめることができなくなります。先行するものに f 追従 g することなく、自分で創造することが必要なのです。

- |        |                           |        |        |        |        |
|--------|---------------------------|--------|--------|--------|--------|
| (ア) 実力 | (イ) 固執 <small>こじつ</small> | (ウ) 価値 | (エ) 意図 | (オ) 時間 | (カ) 部分 |
| (キ) 現代 | (ク) 限定                    | (ケ) 段階 | (コ) 基準 | (サ) 空間 | (シ) 欲望 |

## 【問5】

④ 「いまの時代に求められている真の創造力」とありますが、これに関する次の説明文の  ・  にはあてはまる表現を本文中から指定された字数で抜き出し、答えなさい。

「真の創造力」とは、既成の問題に解答を出すことができても身につけることはできません。そもそも「創造」とは、存在しないものを生み出すことです。既成の問題に答えてもすでにあるものをなぞるだけになってしまいます。では、新しいものをつくりだす「真の創造力」とは、どのようなものでしょうか。それは、と同じと言ってもいいかもしれません。他の人が考えもしなかった何かを成し遂げるためには、他のだれとも違う問いを立てる必要があるのです。それでは、そのために知っておきたいことは何でしょうか？ それは、です。それを知ることによって、同じ失敗を避けることができるからです。

## 【問6】

には、「陽」か「陰」かのどちらかが入ります。その組み合わせとして、もっとも適当なものを次の中から選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

- |     |       |       |       |       |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| (ア) | A 〓 陰 | B 〓 陽 | C 〓 陽 | D 〓 陽 |
| (イ) | A 〓 陽 | B 〓 陰 | C 〓 陰 | D 〓 陰 |
| (ウ) | A 〓 陽 | B 〓 陰 | C 〓 陽 | D 〓 陰 |
| (エ) | A 〓 陽 | B 〓 陽 | C 〓 陰 | D 〓 陰 |

【問7】——⑤「別の大きなメリット」とありますが、これに関する次の説明文の(1)～(4)について適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

みなさんのおじいさん、おばあさんが小学生の時は、鉛筆は鉛筆けずりではなく、小さなナイフでけずるものでした。ですから、子どもたちの筆箱やポケットにはナイフが入っていたものです。けれども、いつごろからかナイフは危ないから気をつけろといっているうちに、いまでは学校でも家でもナイフを使う機会はほとんどなくなりました。その結果子どもたちは、ナイフを使って手を切ることはなくなり、「安全」を手に入れたのです。しかしその一方で、

子どもたちは(1) (ア) ナイフ一本で安全な遊び道具を作る学習の機会を失った  
(イ) ナイフで手を切るといふ小さな失敗をする経験を奪われた  
(ウ) ナイフという危険なものを取り扱う勇気を得られなかった

ともいえます。おそらく、

ナイフで手を切ったことのない子どもは、ナイフの危険性について(2) (エ) 不安を覚えている  
(オ) 全く考えていない  
(カ) 漠然と捉えている

なのでしょう。

何回も切り傷を作り、痛い思いをしているうちに、持ち方、力の入れ具合など、どのように扱えばナイフが危険なものになりうるのか、

(キ) 畏敬の念を抱く  
(ク) 本当に理解できる  
(ケ) 新しい知識を得る

ようになるとの違いありません。つまり、この知識伝達は、前の人と同じ轍を踏まないようにすると同時に、

- (4)
- (コ) ナイフの本当の危険性も理解させてくれるのです。
- (サ) 学び方そのものへの姿勢も改めてくれるのです。
- (シ) 失敗を軽視しない社会を醸成してくれるのです。

【問8】

E

G

にあてはまる慣用句を、次の中からそれぞれ選び、(ア)～(ク)の記号で答えなさい。

- (ア) 手塩にかける                      (イ) とりつく島がない                      (ウ) 目を背ける
- (オ) 鼻にかける                      (カ) 秤にかける                      (キ) 地に足がつく                      (ク) 一石を投じる

【問9】

⑥ 「失敗はたしかにマイナスの結果をもたらすものですが、その反面、失敗をうまく生かせば、将来へのおおきなプラスへ転じさせる可能性を秘めています」とありますが、これに関する次の説明文を読み、あとの問いに答えなさい。

設計に関する三重大事故のひとつに、世界初のジェット旅客機コメット機の空中爆発事故があります。今から六十年以上前のことです。イギリス政府主導で、デハビランド社が時速八〇〇キロメートルの高速化と、低振動、低騒音を実現し、当時はたいへんな脚光をあびました。ところが、就航から二年後の一月と四月に二件の空中爆発事故が起きます。多くの人命が失われるというまさに a な失敗です。コメット機の飛行は全面停止、そして失敗の b な原因が究明が行われたのです。

事故原因は、当時は未知のものだった金属疲労の仕組みにありました。高空では機体の内外の圧力差が激しく、地上とは比較にならない負担が飛行機の胴体にかかります。デハビランド社では、実験を行ってはいましたが、実験は実際

の使用状況とは異なる条件で行われていたのです。

私たちが針金を切斷するとき、ペンチを使わなくても、繰り返し曲げることで針金を切ることができですが、金属疲労とはこの原理と同じです。金属疲労には不思議な性質があって、たとえば十の力を与えれば百万回の動きに耐えられなくても、二十の力では百回しかもたない、というように加える力によって大きな差が生じます。つまり、デハビランド社は、実験のときに、与える力を使用時とは異なる条件で行っていたため、**c**に事故を繰り返してしまっただけです。この失敗の原因究明によって、私たちは二つのことを学びました。それによって、その後の航空機市場は、**d**な進歩を遂げたのです。

問題(1) **a** **d** にあてはまる語を次の中からそれぞれ選び、(ア) **く** (コ) の記号で答えなさい。

- |         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| (ア) 致命的 | (イ) 教育的 | (ウ) 強制的 | (エ) 意図的 | (オ) 結果的 |
| (カ) 一般的 | (キ) 飛躍的 | (ク) 間接的 | (ケ) 徹底的 | (コ) 感覚的 |

問題(2) ——「二つのことを学びました」とありますが、それはどのようなことですか。次の中から2つを選び、(ア) **く**

(カ) の記号で答えなさい。

- (ア) 失敗を乗り越えることによって技術は進歩することができる。
- (イ) 実験は実際の使用状況とまったく同じ条件で行う必要がある。
- (ウ) 細い針金はペンチを使わなくても手で切ることができる。
- (エ) 飛行機空中爆発事故の原因究明は航空機市場を進歩させた。
- (オ) 金属は大きな力をかけると少ない回数しか持ちこたえられない。

(カ) 高空での状況と同じ状況を作るとは難しいので実験は困難だ。

【問10】

⑦「失敗と上手につき合う方法」とありますが、筆者の考える方法として、適当なものを次の中から2つ選び、(ア)

の記号で答えなさい。

(ア) 失敗が決定的なものか回復することができるものかは、失敗するまでは分からない。しかし、決定的な失敗は避けなければならぬため、行動する前に先人の目標達成の軌跡きせきを学んでおくとうい。

(イ) だれもがさまざまな場面で、失敗をする可能性を秘めている。よって、失敗をした人を責めるのではなく、むしろ肯定的に捉え、みんなでその人の失敗を補い、助け合っていくようにするとよい。

(ウ) 失敗はマイナスの印象が強いため、人は失敗をすると隠蔽いんぺいをしたくなるものである。けれども、隠蔽はかえって新たなマイナスを生むことにつながるため、積極的に知らせていくようにするとよい。

(エ) 新しいものを生み出したり新しいことをやろうとしたりすると、どうしても失敗は避けることはできない。だから、それを認識した上で、予想される失敗に対し十分に検討し、対応策を準備しておくとうい。

(オ) 小さな失敗を修正していくうちに、当初の計画とは異なるものができ上がることがある。技術の進歩というものは、そのような偶然ぐうぜんの産物であることが多いため、小さな失敗はなるべく多く繰り返すとよい。

(カ) 技術系の現場では、致命的な失敗が起きると人命に関わる。だが、取り返しがつかないことが起こることを恐れていても技術は進歩していかないため、周囲を気にすることなくひたむきに取り組むのがよい。

## 大問Ⅱについて

本来このページには大問Ⅱの問題文が掲載されていましたが、二〇一八年度の入試問題につきましては著作権処理の関係上、掲載することができません。掲載されていた問題文および設問の傍線箇所を別紙にまとめましたので、誠に恐れ入りますが別紙（最終ページ）を参照しながら設問をご覧くださいませようお願いします。



【問1】

A

D

にあてはまる語として適当なものを次の中からそれぞれ選び (ア) ～ (ケ) の記号で答えなさい。

- |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| (ア) | はらはら | (イ) | ひそひそ | (ウ) | ざらざら | (エ) | わくわく | (オ) | はきはき |
| (カ) | じめじめ | (キ) | しみしみ | (ク) | がやがや | (ケ) | きらきら |     |      |

【問2】

① 「そんな風にして、町の中の道はすっかり舗装が行き届いた」とありますが、これに関する次の説明文の (1)

(3) について、適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

テイオの住む島では、テイオが十三歳の時に、町の道路の舗装が始まります。もともと、島の人たちは、

舗装する工事の計画が持ち上がったのは、(2)

うして工事がはじまりますが、島の住民は、(3)

(1) (ア) 道というものは自分たちで踏み固めて作っていくものだ  
 (イ) 道というものは雨が降る日は利用してはいけないものだ  
 (ウ) 道というものは凹凸おうちとこがあったりぬかるんだりするものだ

(エ) 島民に今までの道路への愛着が失われたため  
 (オ) ほかの地域ちいきの道路の様子がわかってきたため  
 (カ) 島の生活の中に初めて自動車が登場したため  
 (キ) 見たことのない技術や機械に興味がそそられる  
 (ク) 島の景観が損そこなわれていくことに不安を覚える  
 (ケ) 長年の希望がかなえられたことに喜びを感じる

、と考えていました。そんな島で道路を  
 でした。そ  
 でした。

【問3】

で答えなさい。

②「もっぱら」、③「めったに」の語の用法の説明として適当なものを選び、それぞれ(ア)～(エ)の記号

②「もっぱら」

- (ア) すべての部分が、そのことだけに占められている様子を表す。
- (イ) それほど頻度ひんどは高くないが、定期的に行われている様子を表す。
- (ウ) まったく欠けることなく、たびたびくり返している様子を表す。
- (エ) あらゆる部分において、すみずみまで行き渡わたっている様子を表す。

③「めったに」

- (ア) 「推量」を表す語ともなつて、決して行うことはできないだろう、という意を示す。
- (イ) 「否定」を表す語ともなつて、よほどのことがないと行われぬ、という意を示す。
- (ウ) 「仮定」を表す語ともなつて、必ずしもそうではないかもしれない、という意を示す。
- (エ) 「意志」を表す語ともなつて、どんなことがあつても行うつもりだ、という意を示す。

【問4】

④「ぼくが言つて、その話はおしまいになつた」とありますが、「その話」をしていた人物たちの様子の説明として  
適当なものを2つ選び、(ア)～(カ)の記号で答えなさい。

- (ア) バムさんは、真剣に野球に取り組もうとしない子どもたちの態度を見て、忙しい仕事の合間をぬつて彼らに力を貸してきた自分の思いは伝わっていないと感じ、言葉を失つていた。
- (イ) バムさんは、子どもたちが気軽に新品の道具を欲しがると聞き、島の大人は満足な道具がなくても立派に生活していることを伝えて、子どもたちに反省してもらおうとしていた。
- (ウ) バムさんは、子どもたちにもっとひたむきに野球に取り組んでほしいと思つて声をかけたものの、内心では子どもたちの言っていることも、もつともだと思わずにはいられなかつた。
- (エ) 子どもたちは、どんなに努力したところで結局は貧富の差によつて勝敗が決まってくつていくという現実に直面して、そうした社会に対してはもう何も言うことができなかつた。
- (オ) 子どもたちは、古い野球の道具を使つていくことで満足なプレーができない自分たちの状態を嘆くと同時に、新しい道具を使つていく相手チームの選手をうらやましく思つていた。
- (カ) 子どもたちは、困つた状態に置かれていくことを強く訴えたものの、子どもたちの活動に興味を持つとしないバ

ムさんに対し、どうせ何を言っても無駄だとあきらめてしまった。

【問5】本文中の E J には「ぼく」の発言が入ります。このうち F と H にはあては

まる発言をそれぞれ選び、(ア)～(ク)の記号で答えなさい。

- (ア) 何の目的？
- (イ) どうしたの？
- (ウ) もういいよ
- (エ) 臆病おくびょうだな
- (オ) こわくない？
- (カ) ぼくも来るよ
- (キ) じゃ、見張るの？
- (ク) そうみたいだね

【問6】——⑤「なんだか馬鹿ばかなことをしていていると思っただが、父は意外に真剣しんけんな顔つきだった」とありますが、「ぼく」の思いの説明としてもっとも適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

- (ア) 周囲には誰だれもいるはずがないと思っただ一方で、人目を気にしている父を見てだんだんと不安が増してきている。
- (イ) 犯人探さがしは一般の人が行う仕事ではないと感じていたものの、すすんで政府に協力する父に敬意を抱きはじめている。
- (ウ) 自分たちがとっている行動は大げさで滑稽こっけいなものだと感じるとともに、きまじめに取り組む父に少々驚いている。
- (エ) 精霊せいれいのようなものは非現実的だとして信じていなかったため、緊張きんちやうしきった父の様子にあきれてしまっている。

## 【問7】

⑥ 「『来ない。ずいぶん遅かったな』と父が少しだけ非難の調子のこもった声で言った」とありますが、「父」の心情の説明として適当なものを2つ選び、(ア)～(カ)の記号で答えなさい。

- (ア) 当事者であるにもかかわらずサブローさんが責任感に欠ける態度をとっていたため、いら立ちを覚えていた。
- (イ) サブローさんが個人的には犯人を明らかにしたくないと思っていることを察し、その立場にやや同情していた。
- (ウ) 政府の役人であるサブローさんでさえ精霊の存在を信じて疑わないことに、不安な気持ちを抱いていた。
- (エ) サブローさんが自ら指定した時間さえも守ろうとしないため、その怠惰な様子に怒りを抑えきれなかった。
- (オ) 建設局のサブローさんが積極的に犯人を捕まえようとしなかったため、政府の方針に対して疑いが生じていた。
- (カ) 根拠もなくおびえていて待ち合わせの約束も守らないサブローさんに対し、仕方がない人だとあきれていた。

## 【問8】

⑦ 「おれはちよつと金がいることになった」とありますが、これに関する次の説明文の a ～ f にあてはまる表現を、後の (ア)～(シ) からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ちよつとしたお金が必要になった時、バムさんの頭に浮かんだのは、政庁の前の十字路に埋めたりユウグウオキナエビスです。あれを掘り出して、お金に換えれば……。でも、今や道路の表面は固いアスファルトにおおわれています。地面の下に埋めたりユウグウオキナエビスを取り出したバムさんにとって、アスファルトは a わけです。でも、舗装道路が町の中を走る車にとって役に立つ便利なものであることを、バムさんは知っています。だから、バムさんは、みんなが寝静まっているあいだに、必要な作業を終えるつもりだったのです。でも、アスファルトは思いのほかに固くて、バムさんは手こずることになってしまいました。バムさんに見れば、b、という思いでもあったでしょう。

「おれのものをおれが掘っただけだぞ」——とバムさんは言います。でも、舗装道路はみんなのものであり、バムさんだけのものではありません。それが分かっているから、バムさんは、いったん取りのけたアスファルトを、cのです。そうしておけば何の問題もない、と考えて。

でも、建設局のサブローさんしてみれば、せっかくできあがった舗装道路を壊されたわけですから、やはりおもしろくありません。キラキラと美しく輝くりユウグウオキナエビスに見ほれながらも、サブローさんは、バムさんにdのです——「なにも、工事が終わってすぐに壊さなくてもいいのに」と。

バムさんは、eためにリュウグウオキナエビスを埋め、野球チームの子どもたちのためにリュウグウオキナエビスを掘り出しただけです。でも、これが現代の日本社会だったら、どうなるのでしょうか？——バムさんのやったことは、器物損壊罪にあたるでしょうし、通行の妨害ぼうがいとなったなら往来妨害罪が成立する可能性もあります。きつと損害賠償責任そんがいばいしょうせきにんもまぬがれません。お話の中では、どうやらバムさんがfようですが、さて、みなさんはバムさんの行為についてどう考えますか？

- (ア) 舗装をあえてしないでおいた (イ) うらみごとを言わずにはいられない
- (ウ) 島の人びとをあつと驚かす (エ) 宝物を隠してしまう存在だった
- (オ) みんなと幸運を分かち合う (カ) おのれの精神力が試されている
- (キ) 余計な手間がかかった (ク) 強い憤りいらいをぶつけてしまった
- (ケ) ちゃんともとに戻した (コ) 罪に問われることはなかった
- (サ) 邪魔じゃまな障害物だった (シ) 反省の日々を送ることになる

【問9】

この物語に関する次の説明文の(1)～(6)について適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

「ぼく」は「バムさんの発掘はっくつ」という言葉を使っています。「発掘」とは、「土の中に埋まっている遺跡や財宝を掘り出すこと」の意であるとともに(1)

(ア) 「人に知られていないすぐれた人物やものを見つけ出すこと」  
 (イ) 「人が見返りを求めずひそかに行ったことを見つけ出すこと」  
 (ウ) 「人の注目を集めることが予想されるものを見つけ出すこと」

も意味

します。バムさんが発掘したのはリュウグウオキナエビスという貝でした。これ自体に相当な価値があることは、バムさんはじめサブローさんの発言から明らかです。この時バムさんはある意味「財宝」を掘り出したと言えますが、一方でこの宝物は(2)

(エ) いつかだれかが掘り出すべきもの  
 (オ) もともとバムさん自身が埋めたもの  
 (カ) そもそも掘り出す予定がなかったもの

ですから、土中から「見つけ出した」ものとは

言えないでしょう。しかし「バムさんの発掘」と表現する「ぼく」にとつて、「発掘」とは何を意味するのでしょうか。

バムさんがリュウグウオキナエビスを土中に埋めたのは、自身が幸運を手にするためにも必要な手続きだったと考えられます。幸運を独り占めすることで(3)

(キ) 幸運そのものが消え去ってしまう  
 (ク) 幸運を倍増させることにつながる  
 (ケ) 同じ大きさの不運を招いてしまう

と信じているから、バムさんは貝を埋めたのです。つまり、バムさんが宝物の使い道を自由に決めるには、

(コ) 町の人びとに宝物の中身を披露ひろうすること  
(サ) しばらくの間幸運をみんなに分けること  
(シ) 幸運の量をほどほどに減らしていくこと  
が必要だったのです。

では、なぜバムさんはこの宝物を掘り出したのでしょうか。バムさんの本来の仕事は農業技術センターの技手ですが、その住まいは「センターのはずれ」にあり、町の大人たちからは「変わり者」と評されていました。一方で、「ぼく」が所属する野球チームに何かと手を貸してくれる姿には、

(5) (ス) バムさんなりに町の人びととつながりを持っていたい  
(セ) バムさん自身も町の人びとにこれ以上嫌われたくない  
(ソ) バムさんなりに町のこれからのことを考えていきたい  
という気持ちが示されているといえるで

しょう。ですから、バムさんは「発掘」した宝物をお金に換え、それを自分のために使うのではなく、子どもたちの新しい道具を買うために使います。新しい道具を手にした子どもたちは、何かというと精神力を持ち出すバムさんの、

(6) (タ) いままで土の中に埋もれていた誇りを「見つけ出した」  
(チ) それまで気付かなかった新たな一面を「見つけ出した」  
(ツ) いつも言っていた精神力の真の意味を「見つけ出した」  
ことでしょう。「バムさんの発掘」とは、

バムさんが土中の宝物を発掘することであるとともに、子どもたちがバムさんという人を新たに発見することでもあったわけです。



【出典】

I

畑村洋太郎『失敗学のすすめ』（講談社、二〇〇〇年）より。

II

池澤夏樹「十字路に埋めた宝物」・『南の島のティオ』（文春文庫、一九九六年）より。













